



第319号
令和8年2月5日
瀬戸市立幡山中学校



つなぐ～子ども達が見つめた“世界”と“自分”

瀬戸市立幡山中学校長 梶田 明敬

2月になりました。3日は節分、4日は立春と、暦の上では春の気配を感じる時期です。今朝、ある生徒に「豆まきはするの?」と聞いてみたところ、「やらない」との返事でした。最近は、昔ながらの年中行事を家庭で行なうことも少なくなっていますが、豆まきはするの?と聞かれて、おもろいですね。今の我が家では、片付けのしやすさを考え、パック詰めされた豆を撒いています。方法は様々ですが、季節の行事を何らかの形で繋いでいきたいものです。

◇2年生「生き方講座」の開催

さて、1月30日(金)には、今年で3回目となる2年生「生き方講座」を開催しました。講師は、毎年お世話になっている戸田隆夫氏です。戸田氏は、元JICA(国際協力機構)で世界各地を回り、世界の平和づくりや、人々が安全に暮らせる社会づくりに深く関わってこられました。特に「すべての人が健康でいられるようにすること」を目指し、その考えを世界へ広めてこられた方です。

◇世界で起こる現実に触れて

講演のタイトルは「未来の『私』と未来の『世界』」。子どもたちがこれから生きていく社会はどう変化していくか、そしてその中でどう生きるのか——予測困難な時代を考える多くのきっかけをいただきました。

前半は、いま世界で起きている様々な現状について話していただきました。紛争や戦争、学校に行けない子どもたち、児童労働で家族を支える子どもたち、水や電気が簡単に手に入らない国々の現実。日本では想像もつかない状況が今この瞬間に起っていることを知り、子どもたちは驚きと戸惑いの表情を見せしていました。

◇ルワンダとカンボジアの「生の声」

後半はアフリカのルワンダでのお話をしました。1994年、民族紛争が激化し、多くの命が犠牲となった惨劇。戸田氏が現地で支援活動に携わり、深く関わってこられた国での出来事を、写真やエピソードとともに語ってくださいました。また、1970年代後半のカンボジアでの少年兵の話も紹介され、子どもたちが自分事として考えられるよう導いてくださいました。

こうした「生の声」を直接聞いたことにより、子どもたちは「平和とは何か」「普通とは何か」「幸せとは何か」といった問いに真剣に向き合っていたように思います。

◇未来へつながるメッセージ

最後に戸田氏は、子どもたちへ次のメッセージを贈ってくださいました。
「私たち一人ひとりの『想い』は、時間と空間を超えて、未来へ、世界へつながっていく。私たち一人ひとりが幸せであるために、どうつながっていくか。」

未来の社会を担う子どもたちが、国境を越え、同じ空の下で手を取り合い、つながっていく。そうした姿が広がり、幸せにあふれた笑顔が世界中で見られる日が訪れるることを、心から願っています。



令和8年4月より、昇降口の開錠時間が8:15に変更となります。ご協力よろしくお願いします。

1年 濑戸つばき特別支援学校との交流

1月16日(金) 午前

今年度2回目の交流会は、瀬戸つばき特別支援学校の生徒を本校の体育館に招いて開催しました。今回は本校の生徒が交流会の準備・運営を担当しました。寒い日でしたが、交流活動を通して、心も体も温まる時間を過ごすことができました。



1年・1組 ボッチャ講習会

1月20日(火) 5・6限

日本福祉大学教授の藤田紀紹先生をお招きし、パラスポーツ競技の一つである「ボッチャ」について学び、体験する講習会を行いました。競技の歴史やルールを学んだ後、生徒たちは「ボッチャ」を用いたゲームを皆で楽しむことができました。



新1年 学校見学会

1月27日(火) 5・6限

4月から入学予定の6年生を対象に、学校見学会を開催しました。5限は校舎を巡回し、授業参観を行いました。その後、在校生と一緒にハタトークを行いました。

22日には新1年生の保護者向け説明会も実施し、多くの方に来校いただきました。



1組 卒業生を祝う会

1月30日(金) 午前

瀬戸蔵にて、市内の特別支援学級合同の「卒業生を祝う会」が催されました。会場の看板を事前に制作したり、開会の言葉を担当したりして、運営に携わりました。3年生の作文は心温まる内容で、3年間の成長を感じる素晴らしい発表となりました。



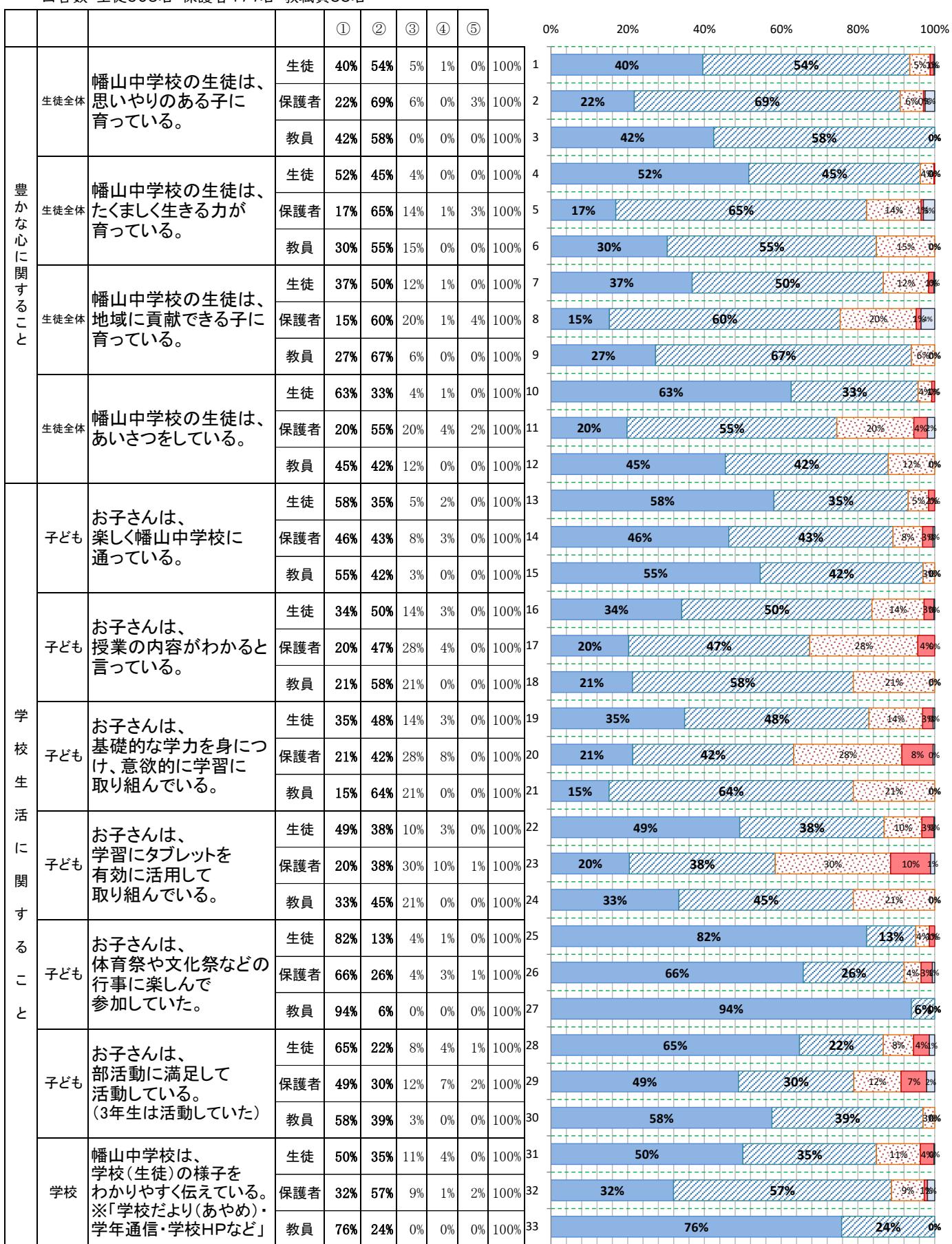
「よりよい学校をめざして」 令和7年度 学校評価アンケート報告

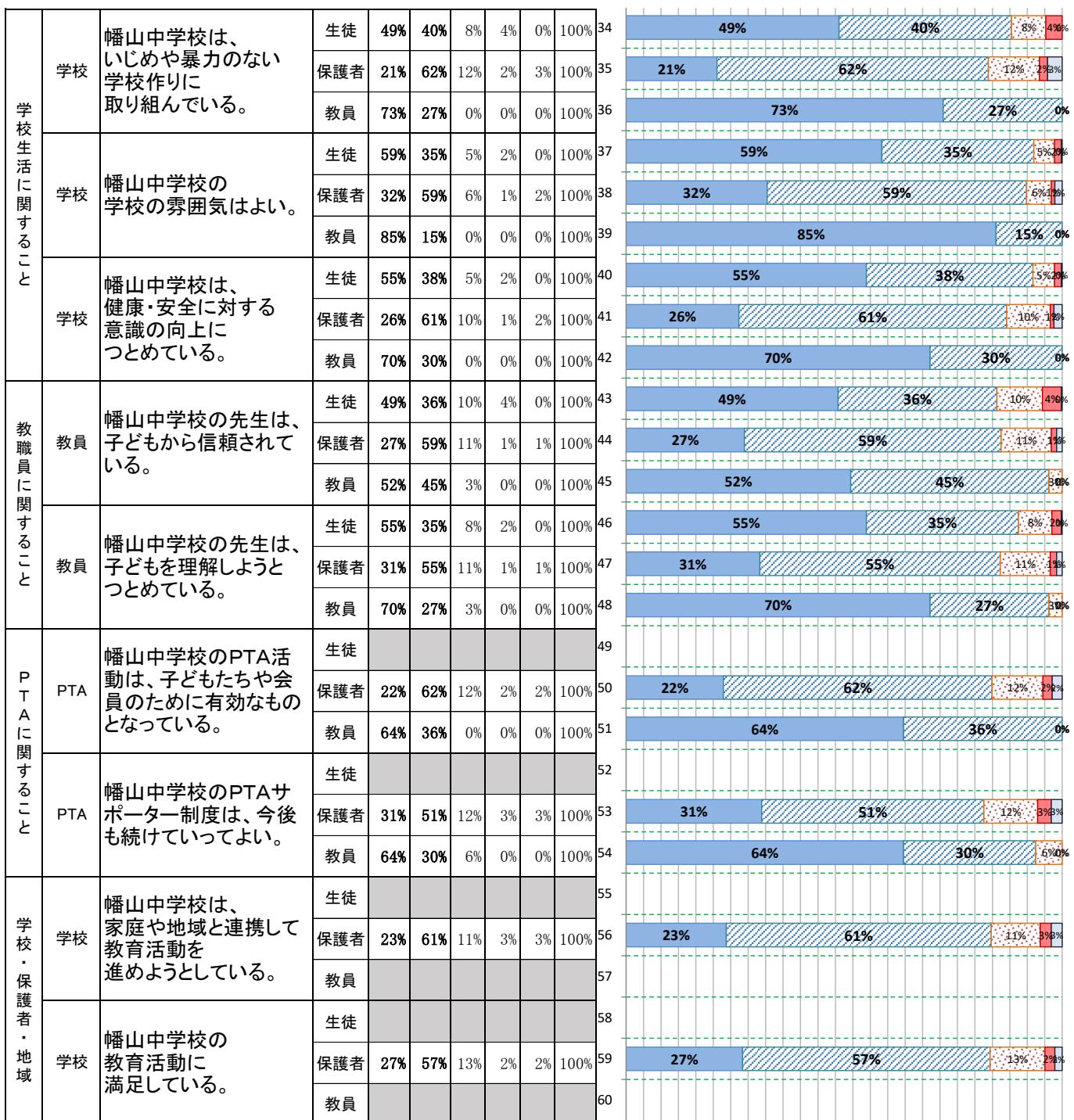
アンケート結果を参考にして、学校改善に役立てていきます。

ご協力ありがとうございました。

回答数 生徒508名 保護者479名 教職員33名

①よくあてはまる ②ややあてはまる ③あまりあてはまらない
④全くあてはまらない ⑤空欄





学校教育目標や「めざす子ども像」に関する質問では、肯定的な意見が例年より高く、学校全体への安心感や居心地のよさが評価されていることがうかがえます。今後も、子どもたちのウェルビーイングを大切にし、かかわる大人どうしも支え合いながら、みんなが幸せになれる学校づくりを進めていきます。

学校行事や部活動への満足度も高く、これらが学校生活の楽しさや充実感を支えています。あいさつの習慣は定着していますが、さらに心のこもったものになるよう、学校・家庭・地域が協力して取り組んでいきたいと思います。

学習面では、授業・学力・ICT活用に関する肯定的な意見が生徒・教職員では8割前後である一方、保護者では7割に満たない状況です。授業のねらいや学びの成果が十分に伝わっていないことが課題であると思われます。今後もさらなる授業改善や教材研究を重ね、楽しみながら学力が伸びる授業をめざしていきます。

また、子どもたちが多様な悩みやストレスを抱えている現状をふまえ、相談体制の充実をはじめとする、心のケアを大切にした取組を一層進めながら、誰もが大切な存在として互いに認め合えるよう、信頼関係を着実に築いていきたいと思います。いただいたご意見や自由記述は、謙虚に受け止め、改善に生かしながら、よりよい学校づくりに努めてまいります。

今後とも、本校へのご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。